Janmadin kī Jay Jay!
ジャンマディン・キー・ジェイ・ジェイ！

グルマーイの誕生日のお祝いの報告
シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム
2016 年 6 月 23－30 日

第 3 部

心の内側の世界
マダヴィ・マヴィラパリ

サッツァングの始まったまさにその瞬間から、子どもたちは活発で積極的に参加していました。全員ホールの前方に一緒に座り、愛するグルの誕生日のお祝いの喜びを率直に分かち合っていました。その中に、初めてシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムを訪問した私の 11 歳の息子、テージャスもいました。私たちは、家族でインドのカルナタカの家から来ていました。

この1週間というもの、私の息子は彼と他の子どもたちが思いついたグルマーイにささげる贈り物の素晴らしいアイデアを、毎日私に話していました。彼らはグルマーイを愛する世界中の子どもたちを代表して、カードを作ろうというのです。私は、息子も他の子どもたちも、実際にシュリー・グルのもとにいることがどれほど貴重な機会であるかを理解していること、そして誕生日にグルマーイのことを思い、愛を送っている世界中の子どもたちをも含めようとしていることに、とても感動しました。

そして今、その時が来ました！ ミーラが、子どもたちが贈り物をグルマーイにささげる時間だと告げたのです。子どもたちは、興奮で今にも席から飛び出しそうな勢いでした。

子どもたちは我先にとグルマーイの椅子の周りに集まり、グルマーイに巨大なカードを贈呈する3人のために、中央に空間を作りました。カードはハート形をしていて、世界地図が描かれていました。一人の子どもがグルマーイに、ハート形の世界は世界中の子どもがグルマーイに抱く愛を示します、と説明しました。

グルマーイはその男の子が話す間、じっとその子に意識を集中して見ていました。子どもたちはグルマーイにとても素直で、純粋な心からのバクティ、すなわち献身を表現していました。私はクリシュナ神が『バガバッド・ギーター』の中で、いかに純粋な心からの献身を描写していたかを思いました。
神はこう言います。

> 献身と純粋な心で私にささげる者は、それが木の葉であれ、花であれ、果実、あるいは水であれ、私はささげられた献身の心そのものを受け取る。[1]

詩聖ニャーネーシュワラ・マハーラージはこの詩の解説の中で、献身の心からささげ物がなされるとき、そこに大小の区別はまったくないと述べています。愛するグルは、弟子がこの純粋な心の空間からささげるときには、常にそれを受け入れる用意があります。子どもたちとグルマーイの間で交わされた愛の中に、私が見たものがまさにこれでした。グルマーイは子どもたちの贈り物に対し、無限の愛と

---

[1] *Bhagavad Gita*, 9.26; Swami Kripananda, ed., *Jnaneshwar's Gita: A Rendering of the Jnaneshwari* (Albany, NY: SUNY Press, 1999), p. 125.

熱意で応えていました。両者の間の絆は、手に取れるほどはっきりしていしました。その瞬間私は、グルの愛の力が世界中あらゆる場所にいるすべての子どもたちとすべての人々の心に到達するのを感じました。私は、献身はグルマーイがバースデー・ブリス(誕生日の至福)という素晴らしい月の、それぞれの日のために選んだ美徳のうちの一つであることを覚えていました。子どもたちはまさに一心に、純粋な献身的愛であるバクティをささげていたのです。

ミーラは子どもたちの贈り物の背景について話してくれました。「グルマーイ、最初、子どもたちは、自分たちの愛がすべて入るような巨大なハート形の部屋を創りたかったのですよ」と言いました。「でも、贈り物のアイデアをさらに発展させたとき、カードを創ろうと決めました。そして、”大きい”カードを創りたいと宣言したのです。そのデザインについてはとても具体的でした。ハートの中に世界を、そして世界の中にハートを置いたのです」

私の息子はよく私に、シッダ・ヨーガの道を全世界にもたらしたいと言います。自分がシッダ・ヨーガの道に感じる愛を、すべての人と分かち合いたいのだそうです。私にはその願いが、他の子どもたちと作ったこのカードに反映されているのを見てとることができました。

二人の少女が子どもたちの二つ目の贈り物を贈呈しました。彼女らが前に来ると、グルマーイの目は興味で大きく見開かれました。グルマーイの椅子の近くの子どもたちは、二人が入れるよう場所を 空けました。少女たちは竹の棒を運んでいました。その竹からはつり下がる花輪の列のように、ひもでつなげられたいくつものカードがつり下げられていました。一番上の列のカードはハート形で、「誕生日おめでとう、グルマーイ」とつづられていました。ハートの下のカードには、エスワイ

ディーエー・ファウンデーションの部門で子ども向けの教えと学びのイベントを作成するタルナ・ポーシャナにより、数年間にわたって収集された世界中の子どもたちからの言葉が書かれていました。

グルマーイは少女たちがこの贈り物について話したとき、椅子から前に身を乗り出していました。グルマーイは手を伸ばして、一連のカードを手に取りました。数人の子どもたちが、カードの言葉をグルマーイが読めるようにひもを近づけました。息子はグルマーイにカードの一つを見せ、それがアーシュラムでできた友達のもので、彼は、今、すでにカナダに帰国しているのだと告げました。

あるセーヴァイトが、この言葉を皆に読んで聞かせました。6歳の子どもがお母さんに言いました。「神はここにいて、神はそこにいる。神はどんな所にもいる。ママ、ママには携帯電話の電波は必要じゃないよ。ママには電話すら必要ないよ。いつだってグルマーイと話すことができるんだから」。笑いの波がホール中に流れ、同意して首が縦に振られました。

私はグルマーイの愛がすべてに浸透することを知っている、この6歳の子の深遠な理解に驚かされました。またしても、私は、純粋な心でものを認識し、直観的にグルの愛の本質を理解している子どもたちから学んでいました。

ミーラは子どもたちからの言葉についてこう話しました。「グルマーイ、これらの言葉は、若い世代がグルマーイの教え、愛、そして恩恵から何を学んでいるかの表れです」。ミーラは、この両方の贈り物は、組み合わされると立体的なカードになるのだと説明しました。するともう一人のセーヴァイトが、ハート形のカードとハートがつり下がった竹の棒を、その二つがどう組み合わさるかを示すために、

子どもたちが自らの手で塗った台に配置しました。子どもの創造的な視点や、それがどうグルマーの誕生祝いの贈り物という実りをもたらしたかを見るのは、驚くほど素晴らしいことでした。

グルマーイが、 それらすべてを作ったのは誰かと尋ねると、一人の子どもが「スーザンと子どもたち全員です」と答えました。そこでミーラは、ニューヨーク市のプロの芸術家である訪問セーヴァイトのスーザン・エルファーを紹介しました。スーザンが立つと、あるセーヴァイトがマイクを彼女に渡しました。彼女は、どのように子どもたちのすばらしい創造を支えたかを述べました。グルマーイはスーザンとすべての子どもたちに感謝し、それから、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの皆が見て楽しめるように、贈り物を下のロビーに展示するように言いました。

私には、子どもたちがこの瞬間が終わってほしくないと思っているのがわかりました。彼らはグルマーイと分かち合いたくてたまらず、グルマーイは彼らにしっかりと注意を払いました。2 歳の男の子がグルマーイの足元で興奮して小さな手をたたきながら踊り回り、喜びを表していました。彼がそこに何があるか見ようとグルマーイのサイドテーブルの方によちよち歩いていくと、母親が彼を抑えようと手を伸ばしました。でも、グルマーイは手振りで母親に、子どもが自由に動き回ってよいことを知らせました。グルマーイは彼に輝く笑顔を向けました。グルマーイの顔は太陽のように輝き、私はすべてに広がるシュリー・グルの愛を再び感じました。

ホールの席に戻る前に、子どもたちはプラナームをささげました。グルマーイは二人の姉妹に手を伸ばし、頭を優しくくすぐりました。彼らはグルマーイの足元にひざまずき、豊かな愛情を持ってグルマーイを見ていました。グルマーイはお姉さんに、「あなたは今 14 歳ね。抱き締めるには大きすぎるかしら？」と言いました。

間髪を入れずに二人は共に立ち上がり、温かく愛情深くグルマーイと 3 人で抱き締め合いました。

子どもたちが席に着くと、ミーラは私と息子が歌を準備し、グルマーイにささげることを発表しました。息子はヒンドゥスターニー、あるいは北インドの古典音楽を学び、私はカルナティック、あるいは南インドの古典音楽を学び、教えています。

ミーラは、その歌はドゥルガー・ラーガの「ラクシャナ・ギーター」であると紹介しました。「ラクシャナ・ギーター」は、ある特定のラーガの特性と資質を表現する類いの歌です。この歌のラーガは女神ドゥルガーの資質である威厳、優雅、勇気、大胆さを呼び起こします。

ミーラが私たちを紹介している間に、私は、インドのすべてのシッダ・ヨーギの愛をグルマーイにもたらすという私自身の意図を思い起こしました。シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムに着く 1 週間前、私はグルデーヴ・シッダ・ピートゥでセーヴァーをささげていました。出発の日、私はグル・チョークに立ち、両腕を広げてこう考えました。「グルマーイ、私はこのすべてを一緒に持っていきます。私はあなたの信奉者からのすべての愛と、グルデーヴ・シッダ・ピートゥのシャクティをあなたのもとに持って行きます」

その前日に私たちが歌の練習をしていると、息子は、グルマーイのために歌うことにわくわくするけれど、でも、ホールにいるすべての人々のことを考えると少し緊張すると言いました 。それで、歌う時に座っていられるように頼んだのです。というのも、立っていたら足が震えるのではと心配したのです。するとライブイベント

部門のあるセーヴァイトが、彼にこんな助言をしました。「ただグルマーイに心を集中しなさい。そうすれば緊張しませんよ」

私たちはグルマーイの方を向いて席に座りました。私たちが歌い始めると、息子はグルマーイを見詰め、グルマーイも息子を見詰め返しました。彼の声は強く、明瞭でした。彼が先導して歌い、私は彼に合わせて歌いました。メロディーが彼の心の純粋さと献身的愛から真っすぐに流れました。それはバクティの権化でした。私は、自発的で愛に満ちた息子に、そして彼がグルマーイのために歌うという素晴らしい機会を持った幸せに、感謝の意を感じました。グルマーイはほほ笑み、音楽に合わせて体を揺らしました。テージャスは自分のささげるという行為に没頭して緊張を忘れ、椅子から跳び出すと立って歌に合わせて体を揺らしました。その瞬間の至福感で、私も立ち上がりました。誰もが皆、音楽に合わせて手を叩きました。

歌は終わり、ホールには拍手喝采が起こりました。でも、私には拍手の音はほとんど聞こえませんでした。私は内側の完全な静寂の場所に入っていました。息子はグルマーイの愛情深いほほ笑みに浸り、グルマーイを見詰めていました。

次に続く…

© 2016 SYDA Foundation. 著作権所有。